# 丸山湿原群保全の会会報

（第 107 号）

発行日：平成 28 年 7 月 13 日　編集／発行：丸山湿原群保全の会

〒669-1211　宝塚市大原野字炭屋 1-1　西谷地区まちづくり協議会事務局内
TEL/Fax0797-91-1788
**臨時連絡先　090 - 1895 - 8061（今住）**
E-mail：maruyamashitugengun@gmail.com

蒸し暑く、普通に生活をしていても熱中症になりそうなこの頃です。雨は降っているようで、降っていないようでよくわかりません。

土曜日の活動も、朝は大雨で中止かと思っていたのですが、「高解像度レーダー・ナウキャスト」という気象庁の予報図で、10:00 には止むと確信し実施しました。川（水路）や湿原は大水かと思いきや、普通の状態。ピンポイントの大雨で全体ではあまり降っていないようです。またまた奇妙な地球です。（グローバルですな・・・）

（今住　7 月 11 日作成）

## 活動報告

★7月９日（土）曇り時々小雨

5名で活動。定期基礎調査、巡回、観察、外来種除去

| 目的 | 市内 | 市外 |
|---|---|---|
| 丸山 | 19 | 23 |
| ハイキング | 3 | 5 |
| その他 | 0 | 0 |

| 場所 | 時間 | 気温【水温】 | 電気伝導度 |
|---|---|---|---|
| 入口 | 10：07 | 23℃ | |
| 視点場 | 11：07 | 24.5℃ | |
| 第３湿原 | 10：？ | 【21.8℃】 | 32μS/cm |
| 第１湿原 | 11：？ | 【25.5℃】 | 28μS/cm |
| 第２湿原 | | | |

### 【湿原までの道】

ツチアケビの結実

１０５号で紹介した**ツチアケビ**が結実しております。何に見えるか各自によって違うようですが、私には唐辛子、ある人にはソーセイジ（魚肉？）葉緑素を持たないとはやはり奇妙です。この房の中に細かな種ができ、命がつながっていきます。腐生植物ですから、うまくナラタケと共生できなければ終わりです。この株はほぼ毎年確認していますが、増えない（２株になった？）ことを思うと、いろいろ考えさせられます。

さらに１０６号でコバノトンボソウとよく似た名前と紹介した**オオバノトンボソウ**が道端に咲いていました。やはり地味な花ですぐ近くにあっても気づかないのですが、よく見るとやはりトンボが力強く飛んでおります。ちょうどハッチョウトンボを並べたような姿です。株は良く見かけますが、開花した姿は見られそうで見られない花です（ウサギの食草）。また、名前の由来は茎の下部に大きな葉がついていることによります。（上記２種は同じラン科）

オオバノトンボソウ

【湿原の様子】

湿原では**カキラン（県ＲＤＢ　Ｃランク）**が「有終の美」で頑張っています。カキランは水辺の近く少し渇きぎみのところに咲きます。近くの水が溜まっている（流れている）ところには、**ミミカキグサ**が花を咲かせ始めました。食虫植物で花の形がまさしく「耳かき」。同じ仲間の**ホザキノミミカキグサ**（紫）、**ムラサキミミカキグサ（県ＲＤＢ　Ｃランク）**も間もなく咲き始めると思います。

**ハッチョウトンボ（県ＲＤＢ　Ｂランク）**もたくさん飛んでいます。**オスの未成熟（テネラル）**も見られました。一見メスと間違えるので観察時には気をつけましょう。

**天気が悪く、カメラがコンデジで細かいものがうまく映っていませんがご容赦ください。（ピンボケ）**

ハッチョウトンボ♂未成熟

ミミカキグサ

## ２０１６年度役員（確認）

**総会資料には綴じこんでいますが、本年度の役員をもう一度紹介しておきます。**

**代　表**　今住　悦昌　**副代表**　水田　光雄　岩﨑　雅文　**会　計**　辰己　ゆう子

**顧　問**　武田　義明（神戸大学名誉教授）　小堀　豊（県民局元参事）

**監　事**　清水　勲　高山　毅　**よろしくお願いいたします。**

## 研修（視察）三田　皿池湿原　７月１０日（日）報告

急な企画で申し訳ありませんでしたが、７名の参加がありました。

**三田皿池湿原はまだ非公開の湿原**で、本年度「守り人」（保全団体）を立ち上げ、市の天然記念物、さらに来年度県の天然記念物を目指しておられます。天然記念物への流れは「丸山湿原群」とよく似ています。「丸山」は約１０年かかりましたが、一気に天然記念物にするところが今の潮流のようです。

**案内は、丸山でもいつもお世話になっている矢倉さん（創造協会）。**三田市から保全管理を委託されておられ、荒れた湿原を復元されています。今一番皿池湿原を知っている人かもしれません。

**丸山との違いは、何といってもため池の後背地として発達している点です。視界が広がり大変開放感あふれる湿原です。ため池と湿原のコンビネーションは、視察に行った私たちも魅了されました。**

あちこちに礫があり、沈まない。

最近の研究で**高位段丘礫層（川の堆積物の層）で生まれた湿原**だとわかってきています。**丸山がシルトの堆積で**

あるのに対し、礫（石ころ）が多く混じっています。踏み込んでも（特別に許可を得ました）沈み込みが少なく、簡単に歩くことができます。その表層を水が流れている。（腐植物が流れやすい＝貧栄養が保たれる）

植生などは丸山とよく似ていますが、開放的（山が平ら）なので光がよく入り、水量も豊富なことから、湿原性植物や昆虫は生活しやすいように感じました。遷移も丸山よりゆっくり進むのではないかと想像できます。考え方によるとお世話しやすい湿原と言えるかもしれません。アクセスも良く、車ですぐ近くまで行くことができます。

逆に盗掘は心配です！どのように公開していかれるか興味深いところです。

丸山ではまだ開花していない、アギナシ、ホザキノミミカキグサがすでに咲いていました。

ホザキノミミカキグサ

標高が低いのかと調べてみると 240m前後、丸山が 280m前後ですからそれほど変わらない？　水がどのように出てきているのかは不明ですが、気温・水温と日照の関係かとも思われます。湿性植物ではありませんが、カザグルマも西谷と比べ約 10 日前後早く開花します。何か早く咲くメカニズムがあるのでしょう。（西谷が遅いメカニズム？）

ハッチョウトンボ♂まだ未成熟

昆虫類も数の多さに圧倒されました。まずはハッチョウトンボ。湿原の真ん中で観察することが出来たからかもしれませんが、いたるところにいます。最盛期とはいえ驚きでした。

また最近丸山ではなかなか観察できないヒメタイコウチもウジャウジャいる場所がありました。山肌が削れたような小さな染み出し口の小さな湿原です。約 2～3ヶ月の間に 5 回脱皮をして成虫になるといわれていますが、そこでは多分３齢幼虫～５齢～成虫ぐらいまでいろいろの大きさのヒメタイコウチを見ることができました。みなさん大騒ぎでした。

ヒメタイコウチ５齢幼虫？成虫？

ヒメタイコウチに群がる会員たち

なぜ最近丸山で見つける機会が少なくなったのか考える必要性を感じました。

今回の視察は、タイプは違いますが、丸山湿原が今どのような状態でどのような管理が必要か考える良い機会になりました。

ヒメタイコウチ

アギナシの花

ハッチョウトンボ♀まだ未成熟

本年も以下の内容でサギソウ開花数調査を実施します。
参加のほどよろしくお願いします。

丸山湿原群エコミュージアム推進協議会主催
丸山湿原群保全の会（実施団体）

## 丸山湿原群･参加型サギソウ開花数モニタリング調査

《活動日・場所》

平成２８年８月２０日（土）　丸山湿原（１０：００　湿原入口集合）

《内容》
丸山湿原群保全の会会員とともに、1000 株はあるといわれる丸山第１湿原内のサギソウ開花数について調査していただきます。
１０：００～１３：００頃　　参加型調査　　＜少雨決行＞

《参加対象者》
湿原の植物に関心をお持ちの方

《参加費》　　無料
《持ちもの・服装》昼食、飲み物、筆記用具、雨具、長靴または厚底靴

《定員》　　３０名（先着順）

《申し込み》 maruyamasagisou@gmail.com（下記問い合わせ先でも受け付けます）

《問い合わせ先》　丸山湿原エコミュージアム推進協議会
〒669-1211　宝塚市大原野字炭屋１－１　西谷地区まちづくり協議会事務局内
電話・FAX ９１-１７８８

《協賛》兵庫県・宝塚市

次回活動日★７月 24 日（日）８月 13 日（土）８月20 日（土）８月28 日（日）
ご参加ください。

ＨＰの打ち合わせも順調に進んでおり、７月末にはオープンできそうです。

## ※会報のメール配信希望の方は

E-mail：maruyamashitugengun@gmail.com　にご連絡ください。

会報用の原稿と画像(丸山エリア)を募集！載せたい記事、こんな発見など、なんでも結構です。上記アカウントまで投稿お願いします。